

4人に1人が

「退学考えた」

コロナ禍で遺児大学生

あしなが育英会

病気や災害で親を亡くした子どもの進学を支援する「あしなが育英会」（東京）は三十日、奨学金を支給している高校生と大学生、その保護者を対象に新型コロナウイルス感染症の影響を尋ねたアンケート結果を公表した。大学生の四人に一人が「退学を考えたことがある」と答えた。同

20・9%が「少し考えた」とがある」とし、4・1%が「大いに考えたことがある」、0・7%が「検討している」と答えた。「休学を検討した」は4・5%で、「休学した」は0・5%だった。

会は年内に、専門学校生や大学院生も含む全奨学生計七千六百十二人に「年越し緊急支援金」として二十万円を給付する。〓新型コロナウイルス関連⑤⑩⑫⑬面

理由には「家計が苦しく授業料が払えない」が挙げられ、「モチベーションが続かない」との答えも多かった。あしなが学生募金事務局長で大手前大三年の岡本蓮さん（三）は「オンライン授業が続き、友人と一緒に学べない影響は大きい」と指摘した。アンケートは十一月にインターネット上で実施。高校生千六百七十四人、大学生千六百九十七人、保護者二千八百七十七人が回答した。

コロナ禍で、保護者の36・7%が「収入が減った」と回答。高校生に家庭生活の変化を聞いたところ、27・1%が「食費を節約するようになったと感じる」とした。同日都内で記者会見した玉井義臣会長は「重苦しい、かつてなくつらい調査だ」と話した。

退学について、大学生の